

● 港ユネスコ協会 各委員会の紹介

UNESCO

現在、10の委員会がMJAのミッションに添って多様な活動を推進しています。

MJA

会員開発委員会

—この10年の歩み—

当委員会は、より多くの仲間の輪を広げ会員同士の交流・親睦を深めることを目標に活動しています。新たな企画として「みなとUNESCOサロン 講演会」を開設、ユネスコ精神・持続可能な開発目標・平和を掲げ、新たな会員・同好の士との親睦・成熟・拡大を目指しています。



1, みなとUNESCOサロン世界を見よう!!

そして SDGsを副題にしての講演会です。

★宇宙、文明そして環境から見る「鉄の話」

砂原公平さん[博士(環境科学)](2021年5月)

★自然との共生から見る「森から海へ」

佐々木剛さん[東京海洋大学教授](2021年7月)

★「麗しの都 ローマたより」

樽見秀爾さん[「ROMAの麗雅都だより」主宰](2022年3月)

2, 大使館訪問／会員に限りの会として親密な国際交流の場としての実績を積み重ねています。スペイン、モンゴル国、フィリピン共和国、アゼルバイジャン共和国、オーストリア共和国、イタリア共和国、ドイツ連邦共和国、ルーマニア(右/2018年6月)、そして、中華人民共和国と各国大使館を訪問しました。

3, 新入会員を囲む会／「ようこそMUAへ」の気持ちで年度の初めにオリエンテーションの形をとり各委員会の活動内容の説明会を開催、併せて懇親の場を設け団欒のひとときを過ごしました。(右/2018年6月)

4, MUAサロン／1年に一回、会員を迎えるのサロンです。塩瀬正明さん、佐藤修平さん、田部揆一郎さん、友金守さん、長門芳子さん、松本洋さん、森村俊介さんを迎え、ご自身の趣味からお仕事やユネスコ活動での豊富な体験談を伺いました。「港ユネスコ協会として会員は宝」の精神です。

5, 新年会員懇親会／新たな一年を寿ぎ、スタートを切る親睦の会です。この10年間でソプラノ歌手・園田直美さん、神田さやかさん、慶応大学・落語研究会の間陽さん、加藤将志さん、東京外国語大学・インドネシア舞踊部の皆さん(右下/2017年1月)、英語落



語家・須藤達也さん(神田外語大講師)、女流能楽師・宮内美樹さん、青松寺獅子吼林サンガ主幹・釜田無関さんをゲストに迎えました。

(常任理事・委員長 小林敬幸)

広報・インターネット委員会

広報・インターネット委員会では、季刊会報（和文と英文）の編集・発行、およびウェブサイトの運営を行っています。港ユネスコ協会では、複数の委員会が年間を通して数多くの事業を行っています。会報はそれらに関する情報を会員間で、また外部の関係団体と共有するとともに、協会の記録として残すものです。

会報に掲載された記事には会員の活動の様子と生の声が凝縮されています。

会報は和英とも、完成次第、会員や関係団体にデジタル配信しています（英文版は主に外国大使館などへ）。

会報の構成としては、会長などによる巻頭言に始まり、事業の報告、事務局からのお知らせなどが含まれます。継続的に発行される会報に掲載される記録は、当協会の歴史を伝える大切なデータとなります。毎号、簡潔で読みやすい紙面作りを心がけています。

当協会のウェブサイトの運営・更新も当委員会の重要な仕事で、事務局長が中心となって継続的な更新・運用に当たっています。会報は毎号、完成次第、ウェブサイトに掲載されます。ウェブサイトを通じたデジタル広報により、多くの方々に当協会とその活動実績・予定を知って頂き、開催イベントへの参加や入会へ結びつけるよう日々努力を重ねています。

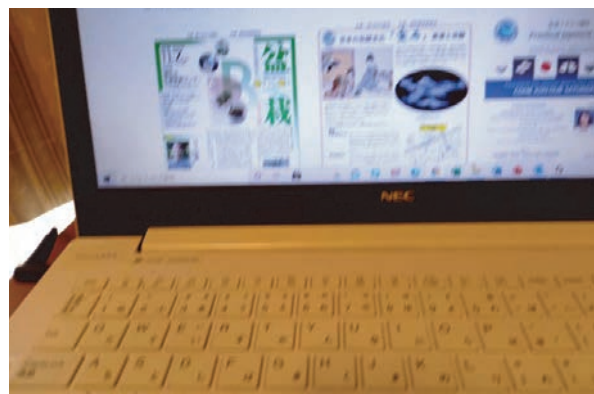
（監事 棚橋征一）



和文会報



英文会報



MUA website

語学研修委員会



ユネスコ協会の理念である「相互理解を深め、教育、科学、文化、コミュニケーションの分野で国際平和と人類共通の福祉を促進しよう」を実践するには、まず言葉を理解するところから始まります。

MUAでは2021年4月より「ビジネス英会話教室」と「中級英語教室」がスタートいたしました。より多くの方に参加していただきたく、時間は水曜日と木曜日の18:30からとなっております。

木曜日は金森先生による「ビジネス英会話教室」、水曜日は中沢先生による「中級英語教室」です。講師はお二人とも、社会経験を十分に積まれた知識豊かな方々です。週に一度、英語を声に出して練習することで、とりわけ日本人が苦手とする「聞く・話す」力を鍛えましょう。目指すのは、海外の方との自由で楽しい「communication」です。

一方、日本在住の外国人の方々を支援し、お互いの文化を理解するため、日本語教室を2020年10月から開講しています。有資格の教師が、テキストを使って日本語の基礎を英語で説明しながら、日常頻繁に使用する「生活するための表現」も同時に紹介しますので、すぐに日本語を使いたいと考えている方々には効率的な日本語学習ができます。

(常任理事・委員長 田川純子)



中級英語教室



ビジネス英会話教室



日本語教室

国際学術文化委員会

世界のニュースはテレビや新聞などのメディアで日々報道され、インターネットでも配信されていますが、講師の方々から生の声で、専門的見地から解説いただくことは、大変意義あると考えています。国際理解に繋がるテーマで、国際理解講演会・シンポジウムを、年3回～4回、開催しています。分かり易く解説いただき、一般参加者がそのテーマに関心を持つ一助なることを期待しています。最近では、縄文の美、ルーマニアのクラシック音楽、古代ギリシャの神話と歴史と世界遺産、イタリアの建築文化などをテーマに開催しました。シンポジウムの「平和を考えるシリーズ」は今年で3回目。「人の心の中に平和の砦を築く」というユネスコの理念にふさわしいテーマを選んでいきます。2019年は「気候変動」、2020年は「海の豊かさ」、今年度のテーマは「ユネスコエコパーク」です。講演終了後には、フロアとのトークも行われています。多くの方々のご参加をお待ちしております。



もう一つの活動は、コアクションです。フィリピンのミンダナオ島で難民の子供を対象に子供図書館を開催されている松居友氏を支援して、港区民祭りで出品された品々、会員とその知人から送られた品を、毎年、直接船便にて送っています。ユネスコ精神の一つ、教育の一端を担っている方へのサポートは今後も継続させたいと考えています。
(常任理事・委員長 佐藤律子)



(世界遺産)

（海洋科学シンポジウム）



(縄文文化)

坐禅体験委員会



MUAは今年で40周年を迎えますが、私達の坐禅体験委員会は、2020年度に「坐禅体験」委員会の一年生として発足しました。

坐禅体験の開催場は、港区愛宕にある萬年山 青松寺と言う太田道灌の名により開創され、曹洞宗江戸三ヶ寺の一つに数えられた、由緒ある古寺です。その青松寺様が「坐禅」を体験する機会を提供して下さいます。

都心の高層ビルとの狭間に昔ながらの佇まいを誇り、その境内は非日常的空間を感じさせます。その様な恵まれた環境の中で、現代人のストレス軽減の一助となり、自分磨きの一環として、「無我」へのシフトチェンジを体験して頂きたく、癒しの場を提供できる様な、活動しております。

メンバーは、坐禅委員が4名、サポート会員が4名程のスタッフで構成し、年1回~2回の体験講座を予定しております。

委員会は、青松寺様のご意向等の都合を伺いながら事務局にて和気藹々と、当日の流れを打ち合わせております。

坐禅体験当日は外国の参加者も多く、受付や広い本堂から坐禅堂への誘導など、スタッフ全員で段取りの良い連携で活動しています。

2021年は、コロナウィルス感染による緊急事態宣言が発令され、活動も停滞期に入っておりますが、収束を願いつつ此からの「坐禅体験」委員会を楽しく続けたいと思います。

(委員長 渡部俊子)



世界の料理委員会



世界の料理委員会では、1982年12月の第一回料理教室以降、世界各国の様々な国の食文化を通して、国際相互理解を深める場を提供しています。年間2、3回開催の「世界の味文化紹介」の料理教室では、講師による母国の紹介・料理・食材にまつわる話題、デモンストレーションの後、参加者が実習と試食をしています。味はもちろん、食材の多様性や盛り付けの美しい工夫も参加者の楽しみです。

最近では、ミャンマー、ルーマニア、コロンビア、モンゴル、イタリア等世界各国のバラエティーに富んだ、季節感溢れる料理を紹介してきました。珍しい食材や調理方法、また講師との会話を通して、人々の暮らし、文化、歴史などの新たな発見もこの委員会ならではの醍醐味です。

お料理が好きな方はもちろん、世界各国の食文化に興味のある方のご参加を会員一同お待ちしております。

(委員長 古市容子)



日本語スピーチコンテスト委員会

港区には外国公館の約50%があり、諸外国の人々が多く居住しており、国際色の豊かなことが地域特色の一つに挙げられています。このために、国際的親善、相互理解及び協力を促進するための活動として、2018年1月20日「第一回日本語スピーチコンテスト」を開催いたしました。

日本の社会や文化に日頃から深く接している世界各国の人々が日本語でスピーチすることは、それを聞く人々に対して、そして発表する本人にとっても、新しい視点を与えてくれる好機です。日本語スピーチコンテストは日本語学習者の日本語力向上に寄与することを目的の一つとしています。

第一回スピーチコンテストのテーマは「日本ってどんな国 外国人が感じたもの」です。審査員5名、5つの審査基準方法で、最優秀賞・港ユネスコ協会会長賞・審査委員賞・優秀賞が審査されました。内容は、第一部「スピーチコンテスト」第二部「会場参加者とスピーカーの交流会」です。第二部は審査時間を利用し、玉川大学小林亮教授ご指導のもと、参加者が3つのグループに分かれ、それぞれのスピーカーを囲みながら「留学生の苦労話・日本や日本語への思い・日本観や今後の展開など」について自由な質疑応答を行います。二部には、玉川大学ユネスコクラブ・慶應義塾大学ユネスコクラブの皆様にはファシリテーターとして参加して頂きました。

賞については、第三回スピーチコンテストで「港区長賞」、第四回では「会場特別賞」が加わりました。2021年12月に第五回の開催となりました。これからも回を重ねながら、内容を充実してまいりたいと思います。

(常任理事・委員長 田川純子)



文化体験教室委員会

港ユネスコ協会40周年おめでとうございます。港区には外国の大使館が多いことも有りまして、日本文化に少しでも触れて頂こうと始めました。

2013年（平成25年）1月にユースと外国人のための茶の湯体験教室を始めました。そして翌年からキャッチフレーズを日本文化にふれてみませんか、で現在に至っています。現在コロナウィルスによる感染防止の為、人との距離の近い茶道はお休みにしております。

現在は風呂敷の結び方教室、習字教室、ゆかた教室、盆石教室、盆栽教室、凧の製作及び凧の上げ方教室、民謡と民話等の実施及び予定をしております。
(常任理事・委員長 笠原正子)



みなと区民まつり等委員会

港ユネスコ協会は「みなと区民まつり」に参加しています。2018年には、37回を迎えましたが、残念なことに2019～2021年の3回はコロナ禍の中、中止になりました。



例年、御成門駅近くの芝公園で10月上旬に開かれます。パレードがあり、商店会による模擬店、バザー、芸能ステージでの歌、踊り、演芸、「みんなの広場」では作品展示や販売などが行われます。また、増上寺周辺では港区にある大使館関係や福祉関係のブースもあり、にぎやかな人出となります。

「みんなの広場」では各委員会のパネルの展示、催し物の紹介、新入会員の勧誘・ミニバザー（売上はここ数年、東日本大震災就学奨励金として寄付）を行ってます。公園に来られる方々も、この協会の催し物のチラシやミニバザーの品に興味をもたれ、会員との会話がはずみます。

「みなと区民まつり」への参加の礎を作り、ご協力をいただいた歴代の委員長はじめ委員会・会員・外郭団体の皆様へ感謝を申し上げます。今後も、このような催しで、地域の方々との交流が続きますよう願っています。

（常任理事・委員長 磯部豊子）



ユース委員会

ユース委員会の企画内容は小・中・高・大学生を対象としています。第一回クルーズイベント「小型船で東京探訪！芝浦の歴史と麻布十番運河巡り」を2018年12月16日に開催しました。主催：港ユネスコ協会、港区補助事業、共催：東京海洋大学水圏環境教育学研究室、協力：慶應義塾大学ユネスコクラブです。手作り満載で、チラシも慶應の女子学生によって作成されました。事業内容は、港区を流れる河や東京湾を船で巡り、生息する魚や水質を知り環境について考えます。

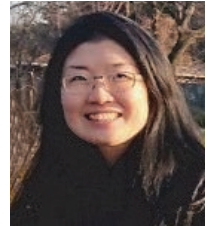
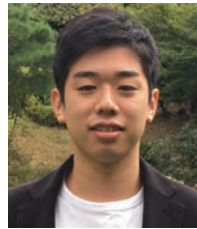
一部は講演と実験。東京海洋大学の白鷹館講義室で行われました。佐々木剛先生（東京海洋大学海洋生命科学部海洋政策文化学科教授・水産学博士）のお話も興味深く、大人も子供も食い入るように聞き入りました。芝浦の歴史と麻布十番運河巡り16問のクイズや、実験への参加意欲も高く、素晴らしい時間でした。特に、ヘドロを使って電池を作る実験では、先生に教えてもらいながら自分で電池を作る子供たちは実に楽しそうでした。司会は慶應義塾大学ユネスコクラブ6期代表筒井真子さん（港ユネスコ協会ユース委員会委員長）が担当しました。二部は船に乗船。この頃から雨が降り出し、カッパを羽織っての遊覧は寒かったですが、楽しい思い出です。

第二回の「小型船とバスで東京探訪！東京の森川海を知る」は2019年10月20日に開催しました。運河クルーズのあと、バスで古川に沿って明治神宮、新宿御苑近くを訪ねました。港区を流れる古川は上流域で渋谷川となり明治神宮や新宿御苑に端を発し東京湾に注いでいます。

第三回は晴天に恵まれ、大型船でのクルーズでした。第四回も開催予定です。

第一回目の企画から、佐々木剛教授のご指導をいただいています。先生は水圏環境教育・水産教育・森川海とそのつながりを基調とした地域づくり、教育の実践研究と普及に努めてこられました。

これらの研究の取り組みがユネスコの正式な国連海洋科学の10年のプログラムに認定されました。テ



ーマ「ブルーエコノミーのための循環型養殖と水質改善に向けた教育」です。

ユース委員会企画を通して、日本人として地球全体の森海川の環境を考える機会を提供することができればと思います。

（委員長 松本謙梓）



東京の森川海を知る

2021 持続可能な開発のための
2030 国連海洋科学の10年

主催：港ユネスコ協会
共催：港区教育委員会
共催：東京海洋大学 水圏環境教育学研究室
協力：一般社団法人竹芝エリアマネジメント
協力：一般社団法人竹芝タウンデザイン

クルーズ船とバスで東京探訪！

東京湾の運河、隅田川をクルーズ船で、古川から神田川をバスと徒歩で巡り、芝浦の歴史を知るとともに「森・川・海とそのつながり」について学びます。

2022年 1月30日（日） 9時30分～16時00分（9時00分受付開始）

募集定員：30名（申し込み多数の場合は抽選）
対象：小学5・6年生、中学生、高校生、大学生
（小学生は保護者1名の同伴が必須）



*雨天決行です。防雨、防寒対策をお願いします。

港ユネスコ協会 事務局



明治学院大学の学生がインタビューに来訪、永野会長と

創立40周年、今日まで何らかの形で関わってこられたすべての方に、祝意と敬意を表したいと思います。

素晴らしい活動の歴史の1頁に参加させていただくことができたことは、大変喜ばしいことだと感じています。一個人としてできることは小さなことですが、異文化理解の重要性などについて、できるだけ多くの方に、少しでも知ってもらえるように、そして会員の皆様の活動が円滑に進められますよう支援させていただきたいと考えております。

(事務局長 新福 彰二)

今年で創立40周年ということで、歴史の重みを感じております。

設立当時の会員さんから当時のお話をお聞きしたり、事務局に保管されている書類や写真を拝見したりして、皆様方が国内外の方との交流等で多岐に渡りご活躍してこられたことが伝わってきます。また、設立当初の思いを続けてこられた会員の皆様の熱意も感じ取ることができます。

今後、皆様方が築き上げてこられたこの港ユネスコ協会を維持し、発展させるお手伝いを精いっぱいさせていただきますと思っています。

(事務局 大塚路子)



サークル発表(1)



サークル発表(2)